

子どもの防犯

子どもの周りには、多くの危険が潜んでいます。子どもを犯罪から守るためには、子ども自身が、自分を守る方法を知り、身に付けていくことが大切です。日頃から、安全について家族で話し合っておきましょう。

問い合わせ
県くらし安全推進課
TEL:043(223)2299 FAX:043(221)2969

自分の身は自分で守れるように

子どもを犯罪から守るためには、「一人にしない」ということが一番大切ですが、登下校や留守番、習い事など、どうしても子どもが一人になってしまう場面もあります。子どもが自分自身を守るよう、大人がその力を付けてあげることが必要です。

繰り返し、何度も教える

子どもには、「何度も繰り返し」教えることが大切です。日常生活の中でしっかりと身に付くまで、何度も繰り返し教えましょう。

自分で考える習慣を付ける

「これはダメ！」などと一方的に教えるより、「こういうとき、どうする？」と聞いて、考えさせてから正しい方法を教えましょう。自分で考える習慣を付けることで防犯意識が高まります。



歩きながら一緒に考えよう

通学路や塾までの道など、子どもの行動範囲と一緒に歩きながら、「危険な場所」や「なぜ危険なのか」を話し合ってみましょう。また、「子ども110番の家」など、危険な目に遭ったときに駆け込める場所を確認しておきましょう。

「危険な場所」とは？

- 人通りの少ない場所
- 見通しが悪い場所(高い塀に囲まれた路地裏など)
- 誰でも出入りしやすい場所(見通しの悪い公園や駐輪場など)

合言葉は「いかのおすし」

- い か ついて **い**かない
- の 車には **の**らない
- お **お**ごえで助けを呼ぶ
- す 怖いと思ったら **す**ぐ逃げる
- し 何があったか大人に **し**らせる

「不審者」ってどんな人？

子どもには、どんな人が「不審者」か具体的に教えて、危険を察知する力を付けさせましょう。不審者は、サングラスを掛けて、帽子をかぶった怪しい人とは限りません。見た目ではなくその人の行動で判断することが大切です。

「不審者の行動」とは？

- 同じ場所にずっといる
- 周りの様子をうかがっている
- こちらをじっと見ている
- 後をついてくる

危険な目にあっても
「絶対にあきらめない」
「絶対に逃げる」気持ちが大切です

- 振り返らずに全力で逃げる！
- 防犯ブザーを鳴らす！
- 大きな声で助けを呼ぶ！
「いやです」「助けて」

犯罪の事例と対応策

自宅や玄関で

【事例】 電話で保護者がいないことを確認し、集金や配達を装ってドアを開けさせる

【対応策】 子どもが一人のときは、留守番電話設定にして**電話に出ない**ようにしましょう。ドアチェーンを掛けることを習慣にし、誰か来ても**絶対にドアを開けない**よう教えましょう。



【事例】 帰宅時に、玄関を開けた瞬間、後ろから押し込まれる

【対応策】 鍵を開ける前に周囲の安全を確認し、**大きな声で「ただいま！」**と言って家に入るよう教えましょう。



また、玄関の周りを整理して、死角を作らないようにしておきましょう。

路上や駐車場で

【事例】 「○○をあげる」、「困っているから助けて」など言葉巧みに話し掛けて連れ去る

【対応策】 **甘い言葉で誘われてもついて行かない**ように言い聞かせ、困っている人には子どもだけで対応せず、**周りの大人を呼びに行く**ように教えましょう。

「ついて行かない！」



【事例】 車から話し掛けて車内に連れ込む、そっと近づき車内に引っ張り込む

【対応策】 **車には近づかず、すぐにその場から逃げ、周りの大人に助けを求める**よう言いきかせておきましょう。駐車場などでは遊ばないようにし、車で追い掛けられたら、**車の進行方向とは逆の方向に逃げる**よう教えましょう。

「すぐ逃げる！」



公園で

【事例】 樹木の陰やトイレなどに連れ込まれる

【対応策】 公園で一人遊びをさせてはいけません。トイレに行くときなども**必ず友達と一緒に行動**するように教えましょう。また、**見通しの悪い公園では遊ばせない**ようにしましょう。

「一緒に遊ぼう！」



店舗などで

【事例】 買い物中、子どもを一人でトイレに行かせたらわいせつ被害に遭った

【対応策】 スーパーなどの店舗内でも油断せず、子ども一人で行動させないようにしましょう。人混みに紛れて連れ出そうとするケースもあります。**子どもから絶対に目を離さない**ようにしましょう。

「目を離さない！」



エレベーターや階段の踊り場で

【事例】 エレベーターに乗っているときに体を触られた

【対応策】 **エレベーターには知らない人と二人きりでは乗らない**ようにし、誰かが乗ってきたら近くの階で降りるように教えましょう。階段の踊り場や駐輪場など**死角の多い場所では遊ばせない**よう注意しましょう。

「二人きりで乗らない！」



危険から身を守る合言葉

ちばっこ「いやです・だめです・いきません」

しつこく話し掛けてくる人に会ったら、この合言葉でしっかり断り、絶対について行ってはいけません。犯人からの「声掛け」をシャットアウトし、危険から身を守りましょう！

子どもの安全対策ガイド 検索

こんな声掛けに注意！

- 「お母さんが呼んでいるから一緒に行こう」
- 「そのカバンかわいいね、見せて」
- 「一緒に子犬(猫)を探して」
- 「一緒に遊ぼう」「名前や家を教えて」
- 「ちょっと髪を触らせて」「写真を撮らせて」
- 「おなかが痛いから一緒にトイレに行って」
- 「○○駅まで連れて行って」

防犯グッズを準備しよう

いざという時のために、防犯ブザーや、GPS機能付き携帯電話などの防犯グッズを持たせておきましょう。防犯ブザーは、身の危険を感じたらすぐに使えるように、手の届く位置に付け、日頃から使い方を教えておくことも大切です。



スマートフォンなどを所持するときは、有害なウェブサイトを見せないようにフィルタリングを利用し、ネットで知り合った人と会わない、個人情報を入力しないなど、利用するときのルールも話し合っておきましょう。